

最近の本学の取組等について
2023.1 ~ 2023.3

活動報告

1. 「多感覚・空間・感性共有のインタラクション技術で創造するウェルビーイングな未来社会」シンポジウムの開催

学内融合研究推進プロジェクトの研究成果を報告するとともに、ポジティブ・コンピューティング、五感インタラクション、癒やしロボットの分野からトップランナーの研究者を招いて最先端の研究事例を講演いただき、多感覚・空間・感性共有のインタラクション技術を用いたウェルビーイングな未来社会の可能性について議論しました。

日時：2023年2月20日（月）13：00～17：00

場所：名古屋工業大学 Nitech Hall

対象者：本学教職員、学生、一般

内容：

- ・招待講演①「ウェルビーイングに向けたテクノロジーの身体性・協働性」講演者：渡邊淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）
- 招待講演②「アバタによる自己の拡張とウェルビーイング」講演者：鳴海 拓志（東京大学）
- 招待講演③「マルチモーダルという視点から見た癒しの世界」講演者：林 里奈（大阪大学）
- ・成果発表「触覚・音声のクロスモーダルなインタラクション技術に基づく共創空間の実現」
講演者：加藤 昇平、田中 由浩、南角 吉彦（本学大学院工学研究科教授）
- ・パネルディスカッション

参加者数：96名

活動予定

1. 2022年度学位授与式、2023年度入学式

学部、大学院の2部制にて開催し、式典の様子は、YouTubeにてリアルタイム配信を行います（後日閲覧可能）。

・2022年度学位記授与式

日時：2023年3月26日（日）学部 10：30～11：40、大学院 13：30～14：30 場所：名古屋市公会堂

・2023年度入学式

日時：2023年4月6日（木）学部 11：00～11：45 大学院 13：00～13：45 場所：名古屋市公会堂

2. 第6回名工大音楽プロジェクトコンサート「祈り、叫び、願い、怒り 表出から表現へ」

音楽を生み出す『祈り、叫び、願い、怒り』という感情の表出が、ロック、ミュージカル、クラシックでどのように表現されるのか、それぞれの分野で活躍されている音楽家の皆様をお迎えしてお届けします。

日時：2023年4月1日（土）15:00～17:00

場所：名古屋工業大学 NITech Hall

対象者：本学教職員、学生、一般（定員250名）

出演者：沢頭 岳・蛭牟田 実里（ヴォーカル）、大山 大輔（バリトン）、小島 愛弓（ヴァイオリン）、岡本 梨紗子（チェロ）、
甚目 裕夫（ピアノ、音楽監督）、名古屋工業大学管弦楽団（アンサンブル）他

申込先：公式 HP (<https://www.nitech.ac.jp/event/2023/04/01.html#m010109>) をご参照ください

教員の受賞

1. 林 幹大 助教が、第17回わかしゃち奨励賞の応用研究部門 最優秀賞を受賞

受賞者：林 幹大 助教

概要：生命・応用化学類林助教が、「イノベーションで未来に挑戦～新たな付加価値の源泉を創造～」を募集テーマとする第17回わかしゃち奨励賞に、「結合交換反応をキーとした『熱可塑性樹脂から架橋樹脂へのシームレスな材料変換コンセプト』を基に、資源的・時間的・人的・空間的コストの削減を導くための新規サステナブル樹脂設計を確立する」という研究提案を行い、「新たな付加価値の源泉を創造」という観点のもと、応用研究部門としての開発に価値が認められ、最優秀賞を受賞しました。

わかしゃち奨励賞は、愛知県、(公財)科学技術交流財団及び(公財)日比科学技術振興財団が共同して、全国の優秀な若手研究者から新たな経済価値をもたらす革新的な基礎研究や産業の高度化・発展、社会的課題の解決につながる夢のある研究テーマ・アイデアを募集し、応募された提案は、基礎研究部門及び応用研究部門のそれぞれにおいて、さまざまな分野の専門家からなる審査委員会により、研究の目的と課題の明確さ、アイデアの新規性、研究の計画性、将来への発展性などを基準に選考するもので、今回、一次(書類)審査を経て、2022年11月25日に実施された最終(ヒアリング)審査により、各賞の受賞者が決定され、2023年1月31日に授章式が行われました。

その他

1. 名工大で開発された「ベルト一口整流器」が、一般社団法人電気学会の第16回電気技術顕彰「でんきの礎」を受賞

概要：本学、名古屋大学及び中央製作所が一般社団法人電気学会の第16回電気技術顕彰「でんきの礎」※を共同受賞しました。対象となった「ベルト一口整流器」は1918年、第八高等学校（現名古屋大学）教授であった椎尾詞（しいお ひとし）氏が発明し、本学の前身である名古屋高等工業学校の電気学科教授の清水勤二氏（後の名古屋工業大学初代学長）の協力のもと、電気学科助手の黒田定義氏とともに1929年に名古屋高等工業学校の実験室でその初号機を完成させたものです。その後、中央製作所が製品化し、世に送り出しました。「ベルト一口整流器」は、国産初の機械式整流器であり、金属表面処理用電源をはじめ、映画館の映写機用やバッテリー充電用等幅広く利用されました。また海外特許も取得することで日本独自技術としての地位を確立し、戦後日本の産業発展に多大な貢献をしたことが評価されました。

※電気技術顕彰「でんきの礎」は、技術史的価値、社会的価値、学術的・教育的価値のいずれかを有し、25年以上経過した電気技術の業績を顕彰するもので、社会の発展に大きく貢献した電気技術の功績を称え、広く周知することにより、今後の電気技術の発展に寄与することを目的としています。

受賞日：2023年2月1日



（ベルト一口整流器：本学6号館1階玄関ホールに展示予定）